神戸大学
大学文書史料室
Kobe University Archives

神戸大学百有余年の
伝統ある歴史が
今ここに…

年次報告書　平成30(2018)年度

ご挨拶

神戸大学大学文書史料室は、平成 22 年 4 月 1 日に設置された本学公式アーカイブズです。その目的は、本学の法人文書のうち歴史資料として重要な文書として移管されたもの、寄贈･寄託されたもの、その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することにあり、国から「国立公文書館等」（＝国立公文書館に類する機能を有する施設）に指定されています。

設置以来、附属図書館の下に置かれていましたが、平成 30 年 4 月の組織改編で学長の下に置かれる室として位置付けられ、新たなスタートを切りました。そこで、この改組を機に、大学文書史料室の年次報告書を従来の「附属図書館年次報告」から分離して別途作成することといたしました。

本報告書は、平成 30 年度に大学文書史料室が実施した様々な事業を整理したものであり、いわば各事業の実績に関する自己評価に相当するものです。本報告書を通して、多くの方々に大学文書史料室の活動をご理解いただくとともに、これからの大学文書史料室の運営に関して忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

目次

1. 法人文書移管受入れ等

1－1. 法人文書移管協議 …… 1

1－2. 法人文書等の受入れ状況 …… 2

1－3. 目録入力 …… 3

2. 利用状況等

2－1. 利用状況 …… 4

2－2. デジタル・アーカイブの充実及び史料原本保護のための電子化 …… 5

2－3. 展示会の開催 …… 6

2－5. 他機関等からの見学受入れ …… 8

3. 研修その他

3－1. 研修の実施 …… 9

3－2. その他 …… 10

沿革 …… 12

大学文書史料室長 …… 12

平成 30 年度　評価と課題 …… 12

大学文書史料室概要（平成 31 年 4 月 1 日）

本報告書は、平成３０年度における神戸大学大学文書史料室の活動をまとめたものです。数値は令和元年度第１回大学文書史料室運営委員会に提出した平成３１年３月末時点のものを基本とするため、移管件数等については後日内閣府から発表される数値（６月末確定）と若干の差異が生じます。

1. 法人文書移管受入れ等

1－1. 法人文書移管協議

【事業計画】 平成 30 年度法人文書移管協議は、次のとおり実施する。

・年間スケジュール（予定）

8 月～1 月　全学の法人文書ファイル管理簿（総務部総務課の取りまとめにより 7 月末頃完成）を基礎データとして移管協議台帳を作成。

1 月～2 月　全学各部局との移管協議を実施（法人文書の評価選別と現物確認を含む）。

2 月～3 月　移管・廃棄の措置を審議決定。室長名で総括文書管理者の事務局長に結果報告。

・対象

移管協議の対象は、次のとおりとする。

対象：　平成 30 年度末（2019.3.31）に保存期間が満了するもの

・　平成 30 年度法人文書移管協議は、当該年度末に保存期間が満了する神戸大学法人文書 3,228 件を対象に 2 月 12 日から 3 月 28 日までの約 1 ヶ月半実施され、移管 571 件（移管率 18%）、廃棄 2,441 件、保存期間延長 216 件が決定した。この協議結果に基づき、移管の受入れを平成 31・令和元（2019）年度に実施予定である。

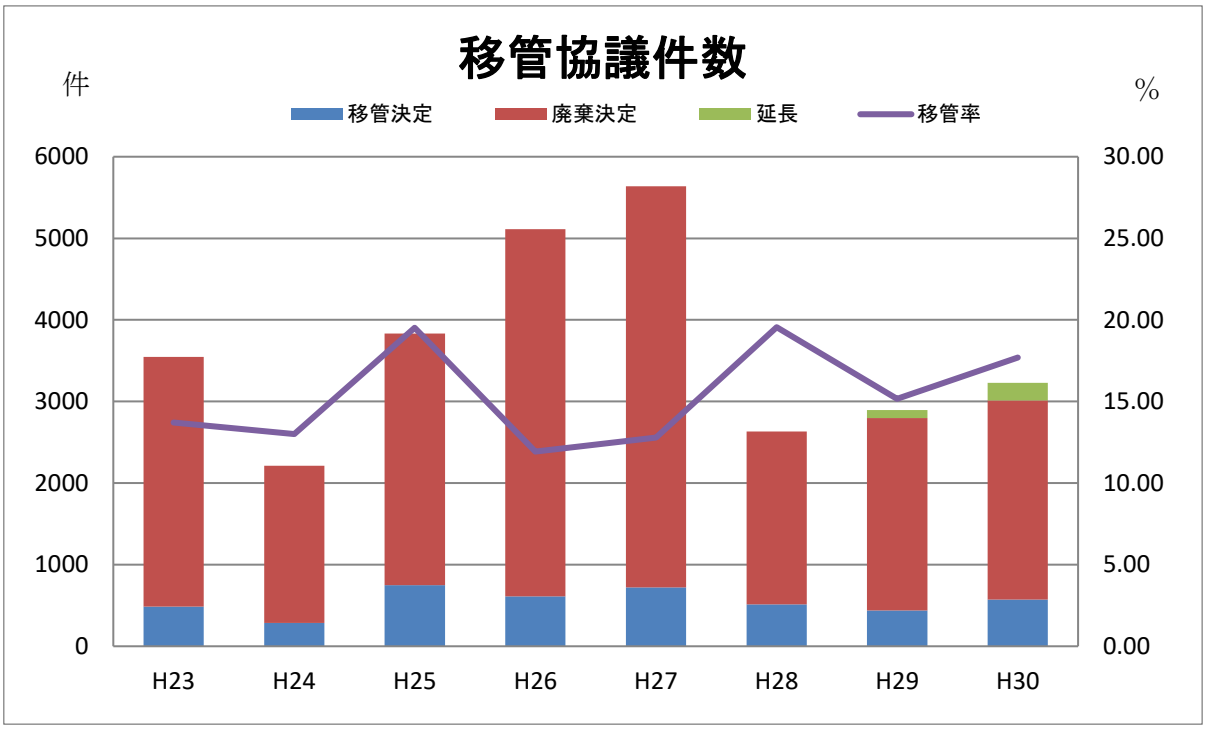
平成 30 年度法人文書移管協議の結果

移管協議の対象	総件数	協議結果			移管率	移管年度
		移管決定	廃棄決定	延長		
平成 30 年度末保存期間満了分	3,228 件	571 件	2,441 件	216 件	18%	H31・R1

（注1）「移管決定」の数値は、分冊や関連文書等をまとめて1件とする場合があるため、実際の冊数や受入れ後の目録入力件数とは異なる。

（注2）延長 216 件のうち 4 件は、平成 30 年度第 3 回大学文書史料室運営委員会（3 月 18 日開催）で審議保留となり、次年度に継続審議となった。

（注3）平成 30 年度第 3 回大学文書史料室運営委員会の審議結果では、移管決定 573 件、廃棄決定 2,454 件、延長 201 件（うち審議保留 4 件）であったが、その後、3 部局から修正（移管決定から延長に修正 2 件、廃棄決定から延長に修正 13 件）があったため、上記の結果となった。



1－2. 法人文書等の受入れ状況

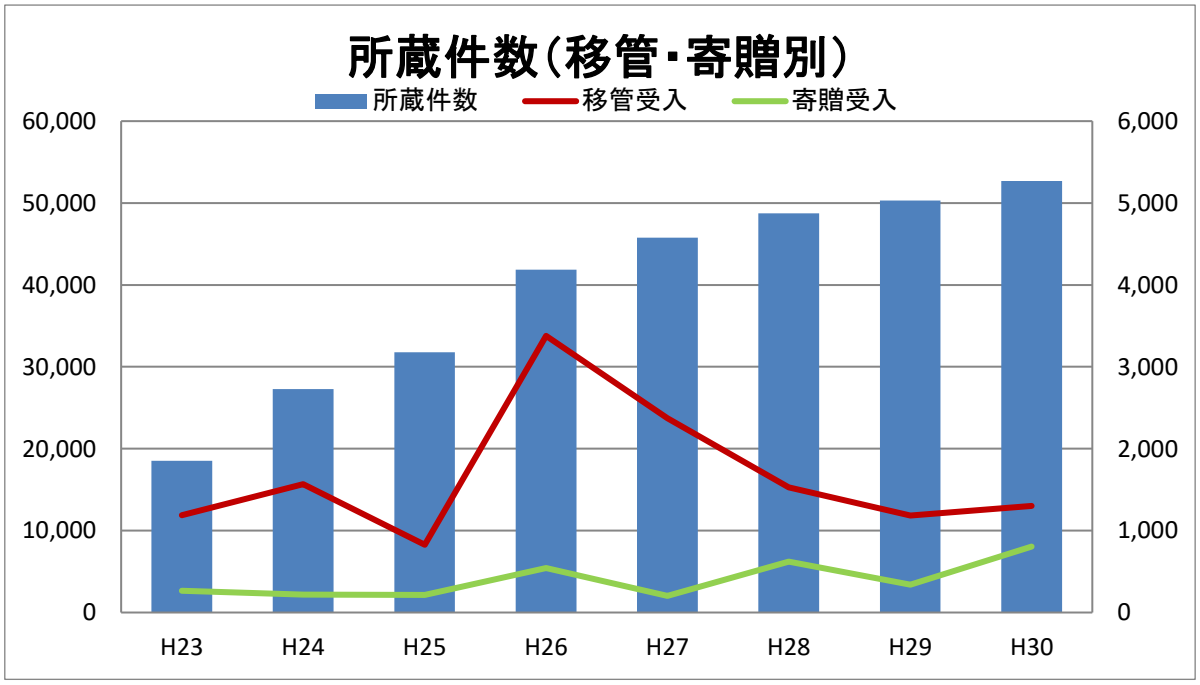
【事業計画】 平成 30 年度における法人文書等の受入れは、次のとおり実施する。
・法人文書（平成 29 年度法人文書移管協議の結果に基づく移管受入れ）
　期間： 平成 30 年 4 月～6 月末（予定）　対象： 平成 29 年度末（2018.3.31）に保存期間が満了したもの
・学内印刷刊行物
　期間： 平成 30 年 4 月～6 月末（予定）　対象： 平成 29 年度に作成された学内印刷刊行物
・個人・団体からの寄贈寄託文書等
　期間： 随時　対象： 神戸大学の歴史に係る資料全般
・その他の受入れ
　期間： 随時　対象： 他大学の年史などの寄贈図書（法的規制のない「参考図書」として受け入れる）

・ 平成 30 年度における法人文書等の受入れ状況は、学内移管文書等 1,301 件、個人・団体からの寄贈寄託文書等 805 件（以上、公文書管理法 2 条 7 項が規定する「特定歴史公文書等」に該当。）、他大学史等の参考図書 133 件、計 2,239 件である。

平成 30 年度における法人文書等の受入れ状況

受け入れた法人文書等			受入れ件数	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書（移管協議に基づく移管）	531 件	2,106 件
		法人文書（上記以外の移管）	25 件	
		学内印刷刊行物	745 件	
		（小計）	1,301 件	
	個人・団体からの寄贈寄託文書等		805 件	
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの（他大学史等）		133 件	
合計			2,239 件	

（注1）「法人文書（移管協議に基づく移管）」の受入れ件数は、移管受入れ時点では 439 件だったが、分冊や関連文書等をまとめて1件としていたため、目録入力時に改めて分冊等ごとに1件としたことにより 531 件となった。
（注2）「上記以外の移管」とは、神戸大学法人文書ファイル管理簿（神戸大学法人文書管理規則第 10 条）に未掲載の古い法人文書、職員手控え書類及び門標等のモノ資料を対象とした、移管協議を経由しない移管を指す。



1－3. 目録入力

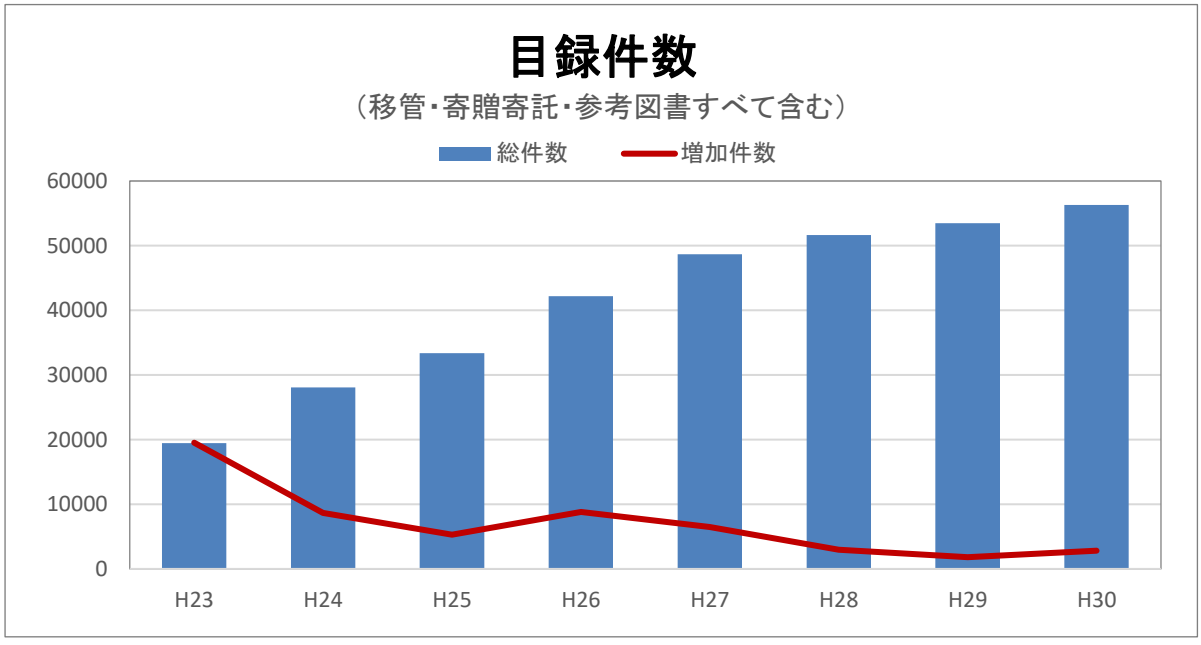
【事業計画】 平成 30 年度における目録入力は、次のとおり実施する。
なお、インターネット上の目録「神戸大学特定歴史公文書等データベース」は毎月定期的に更新する。
・対象
① 平成 30 年度に受け入れた法人文書
② 平成 30 年度に受け入れた学内印刷刊行物
③ 平成 30 年度に受け入れた個人・団体からの寄贈寄託文書等
④ 前年度に受け入れた個人・団体からの寄贈寄託文書等のうち、未整理分（受入後 1 年以内）
⑤ 平成 30 年度に受け入れた参考図書
⑥ 旧百年史編集室所蔵史料のうち、未整理の寄贈寄託史料（遡及入力）
なお、①～④は、受け入れ後 1 年以内の排架・公開を目指す。（大学文書史料室利用等要項 3 条 2 項）

- 平成 30 年度における目録入力の件数は 2,832 件であり、目録総件数は 56,284 件となった。
- インターネット上の目録「神戸大学特定歴史公文書等データベース」を毎月定期的に更新した。
- 国立公文書館など全国の公文書館等全 17 館との横断検索による連携を充実させるため、目録情報 2,832 件を追加提供した。

平成 30 年度における目録入力実績の内訳

対象			目録入力件数	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書	556 件	2,649 件
		学内印刷刊行物	794 件	
		（小計）	1,350 件	
	個人・団体からの寄贈寄託文書等		1,299 件	
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの（他大学史等）			183 件
［上記合計］平成 30 年度目録入力件数（①）				2,832 件
［参 考］平成 22-29 年度目録入力件数（②）				53,452 件
目録総件数（①＋②）				56,284 件

（注1）「目録」とは、「神戸大学特定歴史公文書等データベース」のことを指す。なお、「目録入力件数」の数値は、受入れ時点の件数とは異なる場合がある（受入れ時点では、分冊や関連文書等をまとめて 1 件とする場合があるため）。また、平成 29 年度以前受入れ分の遡及入力の件数も含む。
（注2）「平成 22-29 年度目録入力件数」は、モノ資料 20 点のデータを一括して 1 件にまとめたため、平成 29 年度報告より 19 件減となった。



2. 利用状況等

【事業計画】利用請求等への対応

利用者の利用請求、簡易閲覧申込み、写しの交付請求に対する迅速かつ確実な対応に努めるとともに、一般利用の促進を図るため、展示会の開催、見学者の受入れ、所蔵資料のデジタル化、国立公文書館との連携による横断検索目録の充実、レファレンス対応、大学史関連授業等への協力を積極的に行う。

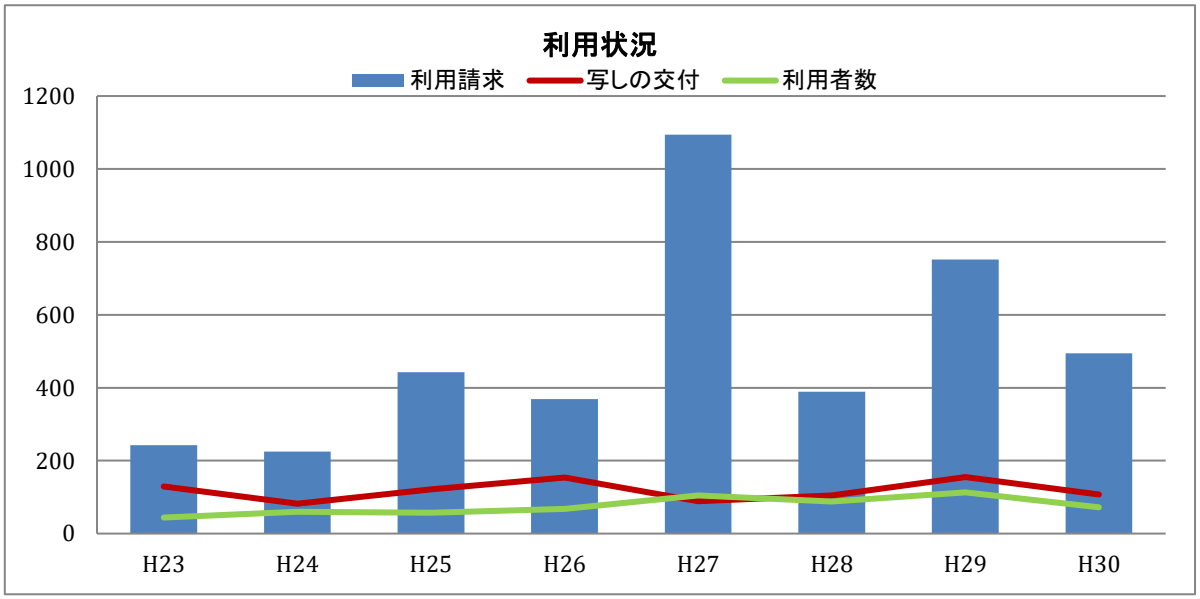
2－1. 利用状況

・ 平成 30 年度の資料利用件数は、前年度より 258 件減少して 494 件（前年度比 66%）、利用者数は、前年度より 41 名減少して 72 名（前年度比 64%）であり、その内訳は下表のとおり。

平成 30 年度における利用状況

		利用者数	利用件数（注）		
			閲覧（①）	写しの交付（②）	合計（①＋②）
本　学	教員	10 名	52 件	9 件（ 10 枚）	61 件
	教員以外の職員	20 名	85 件	8 件（ 36 枚）	93 件
	学生	10 名	10 件	1 件（ 4 枚）	11 件
	旧教員	1 名	0 件	1 件（ 3 枚）	1 件
	旧教員以外の旧職員	0 名	0 件	0 件（ 0 枚）	0 件
	卒業生	8 名	87 件	46 件（ 94 枚）	133 件
他大学	教員	0 名	0 件	0 件（ 0 枚）	0 件
	教員以外の職員	0 名	0 件	0 件（ 0 枚）	0 件
	学生	5 名	54 件	7 件(182 枚)	61 件
一　般	マスコミ	1 名	9 件	0 件（ 0 枚）	9 件
	その他	17 名	90 件	35 件(213 枚)	125 件
合計		72 名	387 件	107 件(542 枚)	494 件

（注）「利用件数」の数値は、(1)公文書管理法第 16 条に基づく利用請求の件数、(2)同法第 24 条に基づく移管元部局による利用の特例の件数、(3)ガイドライン C-13 に基づく簡便な方法による利用の件数を合計したもの。なお、同一の資料を「閲覧」と「写しの交付」の両方で利用した件数（73 件）を除いた場合、利用件数の合計は 355 件となる。



2－2. デジタル・アーカイブの充実及び史料原本保護のための電子化

【事業計画】 史料保存及び利用者の利便性を考慮して、所蔵文書等のデジタル画像の作成、インターネット公開、目録データベースとの連携によるデジタル・アーカイブの充実を図る。（国ガイドライン C-13(2)）

・ 対象

① 『神戸高等商業学校　学友会報』（印刷刊行物）
対象巻号：第 154 号（大正 11 年 1 月刊）～第 163 号（同 12 月刊） 作業内容：平成 26 年度からの継続事業（ただし平成 28、29 年度は予算の都合で実施せず）。デジタル画像作成。インターネット公開。

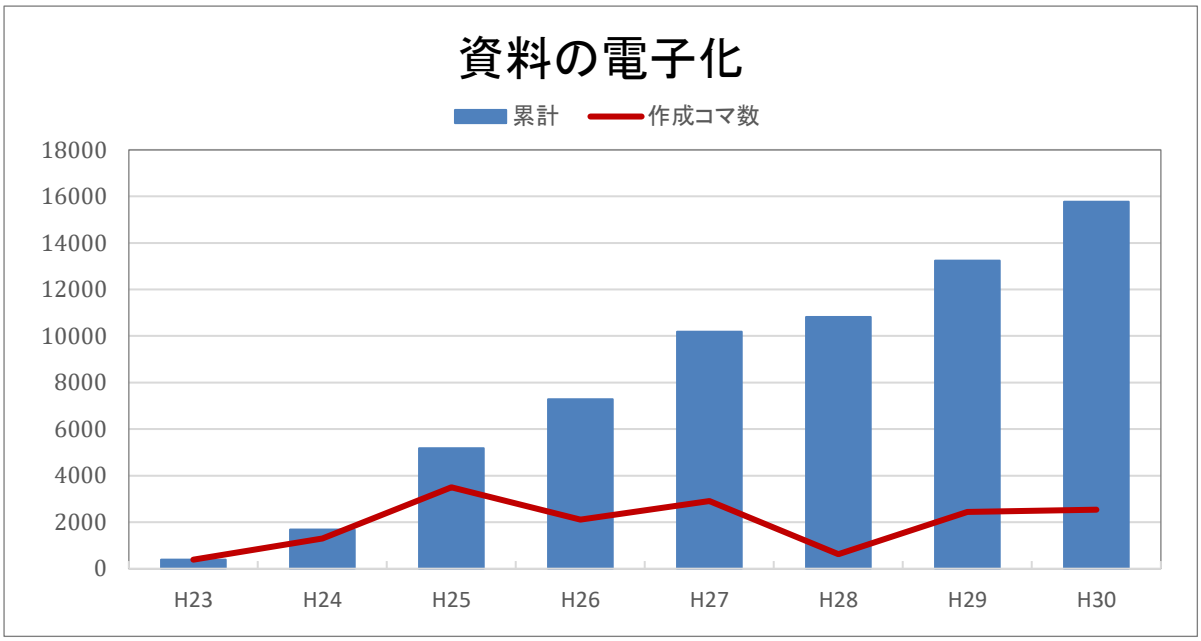
② 卒業アルバム（印刷刊行物）
対象巻号：旧制神戸高等商業学校・旧制神戸商業大学（作業冊数未定）作　業内容：デジタル画像作成。

③ 「兵庫県御影師範学校校歌」（SPレコード）
対象巻号：創立六十周年記念SPレコード（昭和 11 年作成）1枚両面録音　作業内容：デジタル化音源作成。著作権者の許諾を得たものからインターネット公開。

・ デジタル・アーカイブの充実及び史料原本の保護を図るため、①戦前のSPレコード「兵庫県御影師範学校校歌」1 枚のデジタル音源 2 点、②社会科学系図書館所蔵の旧制神戸高等商業学校『学友会報』第 154 号～第 163 号（大正 11 年 1 月～12 月刊）計 10 冊のデジタル画像 298 点、③旧制神戸高等商業学校・神戸商業大学の卒業アルバム（現存分）の内、明治 40 年～大正 12 年、昭和 4 年、昭和 8 年計 20 冊のデジタル画像 1,876 点、④劣化が著しい「旧制姫路高等学校物理実験器具（原簿）」1 冊のデジタル画像 81 点、⑤神戸市立中央図書館所蔵の旧制兵庫県御影師範学校『日英博覧会出品記念写真帖』（明治 42 年刊）1 冊のデジタル画像 41 点、⑥姫路市所蔵の旧制姫路高等学校「教官会議録」等計 6 冊のデジタル画像 233 点をそれぞれ作成した。
・ 利用者の利便性を考慮して、利用度の高い上記②のデジタル画像は、11 月よりインターネットでの公開・提供を開始した（https://lib.kobe-u.ac.jp/archives/da/gakuyukai/）。なお、インターネットによる電子化史料公開ページ「デジタル・アーカイブ」の平成 30 年度アクセス数は、1,739 件（前年度比 63%）であった。

平成 30 年度における電子化事業の状況

対象	画像作成	WEB 公開
・SPレコード「兵庫県御影師範学校校歌」2 曲収録 1 枚	音声 2 点	
・神戸高等商業学校『学友会報』第 154～163 号 10 冊	298 点	○
・神戸高等商業学校・神戸商業大学の卒業アルバム 明治 40～大正 12、昭和 4、8 年 20 冊	1,876 点	
・「旧制姫路高等学校物理実験器具（原簿）」1 冊	81 点	
・兵庫県御影師範学校『日英博覧会出品記念写真帖』1 冊	41 点	
・姫路高等学校「教官会議録」等 6 冊	233 点	
合計	2,529 点＋音声 2 点	



2－3. 展示会の開催

【事業計画】

・ 常設展

収蔵物を広く学内外に紹介するため、常設展「神戸大学史展―110 年の歩みと展望―」を常時開催する（ただし特別展の開催期間を除く）。学内改組等により展示内容の更新が必要になる場合は、経費等を勘案し可能な範囲で迅速に対応する

・ 特別展・巡回展

① 第 13 回ホームカミングデイに合わせて特別展を開催する（10 月開催予定。テーマは別途検討）。

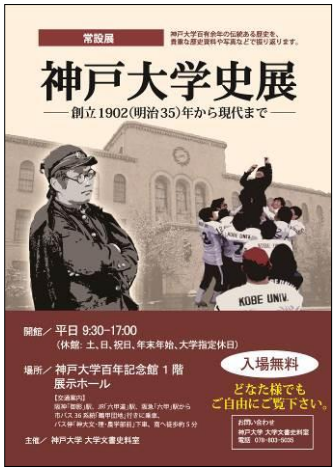
② 巡回展を開催する（神戸と東京において開催。海事博物館 11～12 月、東京六甲クラブ 1 月、社会科学系図書館展示ホール 2 月開催予定。各会場の規模に合わせて特別展の内容を再構成）。

・ 収蔵物を広く学内外に紹介するため、常設展「神戸大学史展―創立 1902（明治 35）年から現代まで―」を常時開催（展示替え及び特別展の開催期間は除く）し、百有余年にわたる神戸大学の歴史に関する文書や実物資料、写真など 206 点を展示公開した。また、展示替えによる臨時休館期間を短縮するため、平成 30 年 10 月 2 日～11 月 16 日の間、展示ホールに隣接する空きスペース（観覧スペース）を利用したミニ常設展を開催した。常設展（ミニ常設展を含む。ただし、特別展期間中を除く。）の来場者数は、前年度より 674 名増加して 4,034 名（前年度比 120%）であった。

・ 平成 30 年度特別展及び巡回展（東京１回、神戸２回開催）は、「明治期の神戸と神戸大学―「明治 150 年」記念―」をテーマに、主に明治期における神戸と神戸大学前身校の諸相を貴重な文書・写真・実物史料（一部は初公開）などで取り上げた。事前にテーマに係る史料の調査研究を実施し、その成果を展示に活用した。特別展の来場者は、前年度より 201 名増加して 1,165 名（前年度比 121%）、巡回展の来場者数は、前年度より計 485 名増加して計 6,312 名（前年度比 108%）であった。なお、特別展来場者アンケート集計によれば、回答者 182 名中、とても満足 81 名（44.5%）、満足 100 名（55%）、やや不満 1 名（0.5%）であり、総合的な満足度 99.5%の高評価を得た。

平成 30 年度における展示活動の状況

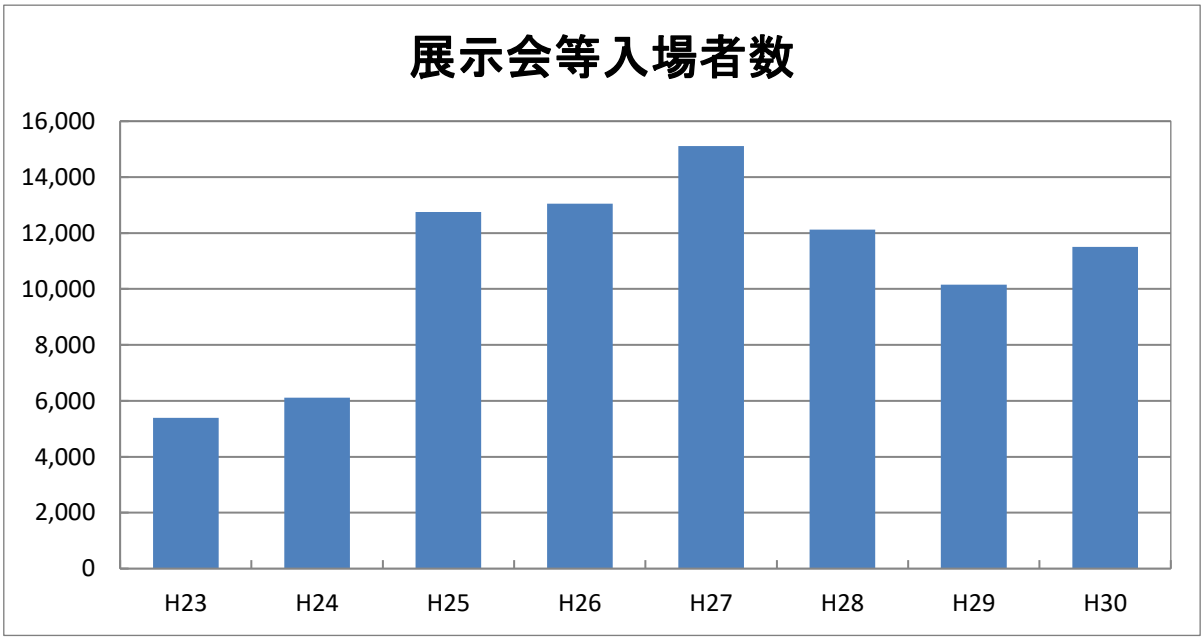
種類	展示テーマ	開催期間	会場	来場者数
常設展	神戸大学史展―創立 1902（明治35）年から現代まで―	常時（展示替、特別展開催時を除く）	神戸大学百年記念館 1 階 展示ホール	4,034 名
特別展	明治期の神戸と神戸大学 ―「明治 150 年」記念―	H30.10.25（木）– H30.11.16（金）	神戸大学百年記念館 1 階 展示ホール	1,165 名
巡回展（神戸Ⅰ）	明治期の神戸と神戸大学 ―「明治 150 年」記念―	H30.11.28（水）– H30.12.12（水）	神戸大学海事博物館	112 名
巡回展（東京）	明治期の神戸と神戸大学 ―「明治 150 年」記念― パネル展	H31.01.07（月）– H31.01.24（木）	神戸大学東京六甲クラブ	2,297 名
巡回展（神戸Ⅱ）	明治期の神戸と神戸大学 ―「明治 150 年」記念―	H31.02.06（水）– H31.03.02（土）	神戸大学社会科学系図書館2階展示ホール	3,903 名
			合計	11,511 名



（常設展の案内チラシ）

（特別展の案内チラシ）

（特別展における来場者の様子）



2－4. 他機関等からの見学受入

・　他機関等からの見学（視察）が 4 機関 95 名あり、その内訳は下表のとおり。

平成 30 年度における見学の受入れ状況

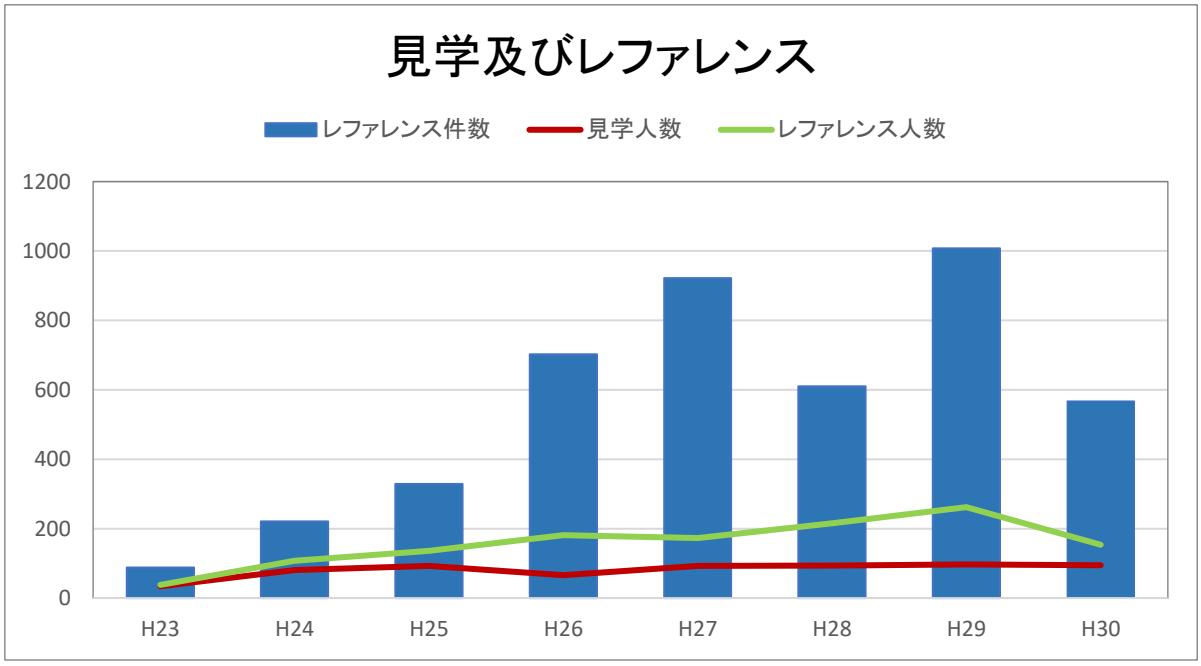
年月日	大学文書史料室を見学した機関	見学者数
H30.07.23	神戸大学総合教養科目「神戸大学史B」（教員 1 名、受講生 39 名）	40 名
H30.10.30	神戸大学文学部講義「文化財学」（教員 1 名、受講生約 50 名）	51 名
H30.11.01	東京大学文書館（教員 1 名）	1 名
H31.01.23	北海道大学大学文書館（教員 1 名、生徒 11 名）	3 名
合計		4 機関 95 名

2－5. レファレンス対応

・　学内外からの各種照会（主に調査相談）は、前年度より 440 件 108 名減少して 568 件（昨年度比 56%）、154 名（昨年度比 59%）あり、それぞれ情報提供を行った。

平成 30 年度におけるレファレンス活動

対　象		件数(人数)	対　象		件数(人数)
本学	教員	67 件(16 名)	他大学	教員	7 件(5 名)
	教員以外の職員	134 件(49 名)		教員以外の職員	1 件(1 名)
	学生	22 件(12 名)		学生	11 件(4 名)
	旧教員	3 件(2 名)	一般	マスコミ関係	53 件(15 名)
	旧教員以外の旧職員	0 件(0 名)		その他（周辺住民等）	151 件(23 名)
	卒業生	100 件(15 名)	合計		568 件(154 名)
	関係諸団体(同窓会等)	19 件(12 名)			



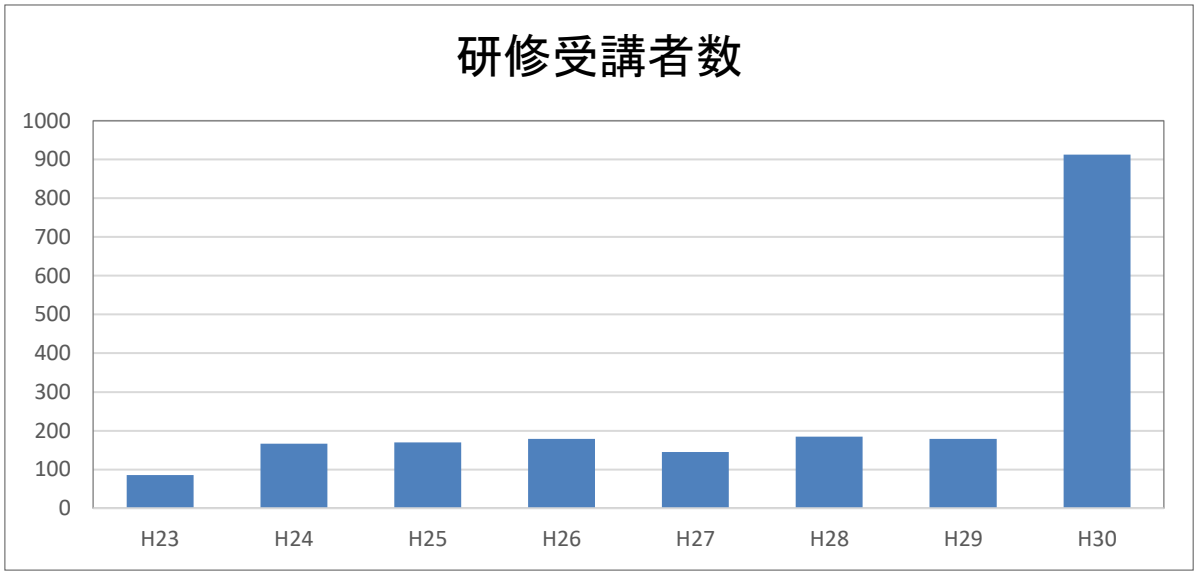
3. 研修その他

3－1. 研修の実施

・ 公文書管理法第 32 条に基づき、本学職員及び大学文書史料室員に対して、次の研修を実施した。なお、平成 30 年度より、前年度までの文書管理者研修（集合研修）に替えて e-ラーニングを活用した法人文書管理研修を開始し、初めて受講対象者を全教職員に拡大した。この研修は総務部総務課との共催であり、大学文書史料室は主に教材の作成を担当した。

平成 30 年度における研修実施の内容

研修名	対象者	テーマ・内容	開催日	受講者数	備考
新任教職員研修（講師派遣）	神戸大学の新任教職員	神戸大学法人文書管理について	H30.04.03(火)	91 名	総務部人事企画課主催
法人文書管理研修（e-ラーニング）	神戸大学の ①事務系職員 ②教員 ③文書管理者及び文書管理担当者	各対象者向けに下記3つの教材を使用 ①神戸大学における法人文書管理業務の全般的な内容 ②教員文書の管理に関する内容 ③適正な文書管理を確保する実施責任者向けの内容（内閣府作成の汎用教材を使用）	H30.12.27(木)より年度内	810 名	総務部総務課との共催
大学文書史料室研修	大学文書史料室の職員	①公文書管理 e-ラーニング研修（内閣府作成の汎用教材を使用） ②兵庫県公館（県政資料館部門）、海外移住と文化の交流センターの展示見学 ③大阪府公文書館の見学	①H30.07.27(金)午前、②同日午後 ③H30.09.07(金)	① 4 名 ② 4 名 ③ 4 名	大学文書史料室利用等要項 30 条 1 項の規定に基づく室員研修



3－2. その他

- **室の改組**

  大学のガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底を図るため、附属図書館の下にあった大学文書史料室を「学長の下に置く室」とする組織体制の変更を行った（平成 30 年 4 月1日施行）。なお、この改組に伴い、施設名称が「神戸大学附属図書館大学文書史料室」から「神戸大学大学文書史料室」に変更となった。

- **内閣総理大臣への平成 29 年度状況報告**

  平成 30 年 7 月 20 日付け神大史室第 30-1-1 号により、「平成 29 年度特定歴史公文書等の保存及び利用の状況」を内閣総理大臣に報告した。本件は、公文書管理法第 26 条第 1 項に規定する報告の義務に基づく。なお、本報告の概要は、平成 31 年 2 月に内閣府大臣官房公文書管理課から「平成 29 年度における公文書等の管理等の状況について」として公表された。

- **平成 30 年度全国公文書館長会議への参加**

  国立公文書館主催「平成 30 年度全国公文書館長会議」（平成 30 年 6 月 8 日開催）に室長及び室員が出席し、「アーキビストの育成と活用－職務基準書の活用－」をテーマに意見交換を行った。会議の成果は「『アーキビストの育成と活用－職務基準書の活用－』に取り組む基本的考え方」（平成 30 年 6 月全国公文書館長会議）として取りまとめられた。

- **規則等の改正**

  平成 30 年 5 月 18 日に「特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」（平成 23 年 4 月 1 日内閣総理大臣決定）が一部改正されたことに即応して、神戸大学大学文書史料室利用等要項など関連学内規則等 4 件について所要の改正を行った（同年 10 月 1 日施行）。

- **法人文書管理状況監査への同行**

  総務部総務課が実施する平成 30 年度法人文書管理状況監査に可能な限り積極的に同行（6 回）し、本学における法人文書の管理状況等を現地確認することにより、現状把握及び問題点の共有を図ると共に、同課と共催する法人文書管理研修の教材の改善に活用した。

- **調査研究への協力**

  次の学外 3 機関からの依頼に応じて、本学の歴史に関する調査研究にそれぞれ協力し、各機関の展示・テレビ番組制作等への支援を通じて本学情報の発信に貢献した。

  ①姫路科学館主催の開館 25 周年記念特別展「科学実験の今むかし―旧制姫路高等学校物理実験機器コレクションから―」（平成 30 年 4 月 28 日－5 月 27 日開催）において、同館からの依頼に応じて、旧制姫路高等学校に関する史料調査に協力した。

  ②愛媛人物博物館主催の夏季企画展「貿易立国日本の先覚者・高畑誠一」（平成 30 年 7 月 28 日－9 月 17 日開催）において、同館からの依頼に応じて、本学出身の高畑誠一に関する史料調査に協力した。

  ③NHK 総合「ファミリーヒストリー 三木谷浩史」（平成 30 年 12 月 17 日放送）の番組制作のための史料調査に協力した。

- **寄稿**

  利用者支援及び広報の充実を図るため、執筆依頼に応じて史料の調査研究を実施し、本学広報誌 2 回、同窓会誌 4 回、他機関発行誌 1 回への寄稿を次のとおり実施した。

  ①「菊水の徽章と神戸大学―大学文書史料室から(26)―」
  （同窓会誌『凌霜』第 417 号、神戸大学凌霜会、平成 30 年 4 月号、20-21 頁）

  ②「一期校・二期校制度と神戸大学―大学文書史料室から(27)―」
  （同窓会誌『凌霜』第 418 号、神戸大学凌霜会、平成 30 年 7 月号、18-19 頁）

③「「神大」ヒストリー　山口誓子と神戸大学」
（広報誌『風』Vol.11、神戸大学総務部広報課、平成 30 年 7 月、2 頁）
④「神戸大学大学文書史料室について」
（『大阪大学アーカイブズニューズレター』第 12 号、大阪大学アーカイブズ、平成 30 年 9 月、3-5 頁）
⑤「柚木馨学長の“遺言”―大学文書史料室から(28)―」
（同窓会誌『凌霜』第 419 号、神戸大学凌霜会、平成 30 年 10 月号、30-31 頁）
⑥「「神大」ヒストリー　狩野忠正先生と百年記念館」
（広報誌『風』Vol.12、神戸大学総務部広報課、平成 30 年 12 月、2 頁）
⑦「学部の順序について―大学文書史料室から(29)―」
（同窓会誌『凌霜』第 420 号、神戸大学凌霜会、平成 31 年 1 月号、19-20 頁）

- **神戸大学沿革図の作成**

①『学生生活案内　平成 30 年度』（学務部、平成 30 年 4 月刊）掲載の本学沿革図を作成した。
②『神戸大学概覧 2018』（総務部広報課、平成 30 年 6 月刊）掲載の本学沿革図を作成した。

- **学内記念事業への協力**

①経済経営研究所創立 100 周年記念事業の一つである旧制神戸高等商業学校資料群（大学文書史料室所蔵）のデジタル化・活字化（翻刻）事業に協力した（次年度も継続予定）。
②文学部・大学院人文学研究科創立 70 周年記念事業「募金趣意書」（平成 31 年 2 月）の作成に協力した。
③医学部医学科創立 75 周年・神戸病院創立 150 周年記念誌（次年度発行予定）作成のための事前調査に協力した。
④附属学校部創立 10 周年記念誌（次年度発行予定）の作成に協力した。

- **大学史及びアーカイブズ学関連講義への講師派遣**

本学の歴史及びアーカイブズ学に係る次の講義に協力して講師を派遣した（大学史講義 6 回、アーカイブズ学講義 2 回）。
①総合教養科目「神戸大学史A・B」講義への講師派遣（1Q2 回、2Q1 回、3Q2 回、4Q1 回）
②文学部専門科目「地域歴史遺産保全活用基礎論A」講義への講師派遣（2Q1 回）
③文学部専門科目「文化財学・博物館資料保存論」講義への講師派遣（3Q1 回）

- **講演会への講師派遣**

主催者からの依頼に応じて、本学の歴史に係る次の講演会に講師を派遣した（学内 1 回、学外 2 回）。
①神戸大学附属図書館職員研修（平成 30 年 5 月 15 日開催、講演テーマ「神戸大学の歴史を知ろう！」、会場：神戸大学フロンティア館、参加者 50 名超）
②神戸大学 KUC37 会十日会（卒業生向けの講演、平成 30 年 7 月 10 日開催、講演テーマ「神戸大学の今昔」、会場：神戸大学学友会大阪クラブ・大阪凌霜クラブ、参加者 35 名）
③愛媛人物博物館夏季企画展関連講座（平成 30 年 8 月 4 日開催、講演テーマ「高畑誠一と神戸高商」、会場：愛媛県生涯学習センター本館、参加者約 60 名）

- **キャンパス案内**

次の各団体に対して本学のキャンパスを案内した。
①文部科学省（平成 30 年 4 月 6 日、参加者 1 名、本学広報課依頼）
②宗像青年会議所（平成 30 年 5 月 16 日、参加者 5 名、六甲台後援会依頼）
③岡山学友会（平成 31 年 2 月 16 日、講演付き、参加者 15 名、本学卒業生・基金課依頼）

- **寮歌祭への参加**

第 32 回洛陽寮歌祭（平成 30 年 4 月 14 日開催、会場：京都タワーホテル）に参加し、旧制前身校同窓会との交流を深めた。

沿革

2010(平成 22)年 4 月 1 日	神戸大学附属図書館大学文書史料室設置
2010(平成 22)年 4 月 1 日	旧百年史編集室主催の神戸大学史常設展(百年記念館 1 階展示ホール)を継承
2010(平成 22)年 10 月	特別展「神戸大学と戦争―終戦 65 周年記念―」を開催(10 月 25 日-11 月 5 日) (以後、毎年度テーマを変更して特別展開催)
2011(平成 23)年 4 月 1 日	「国立公文書館等」の政令指定を受ける
2011(平成 23)年 4 月 1 日	一般利用開始
2011(平成 23)年度	全学対象の移管受入れを開始(以後、毎年度定期的に実施)
2018(平成 30)年 4 月 1 日	神戸大学大学文書史料室に改組

大学文書史料室長

福長　　進 (人文学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
大塚 裕史 (法学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
木下 資一 (国際文化学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
大津留 厚 (人文学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
浅野 慎一 (人間発達環境学研究科教授、附属図書館副館長)	平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
中野 俊一郎 (法学研究科 (法科大学院) 教授)	平成 31 年 4 月 1 日～現在

平成30年度　評価と課題

平成 30 年度は、室の改組(平成 30 年 4 月)を実施すると共に、喫緊の課題であったガイドライン改正に伴う関連規則等の整備、全教職員を対象とした e-ラーニング研修(総務部総務課共催)の導入を行った。また、政令指定機関としての法的義務を全うするため、歴史公文書等の受入れ、目録入力、利用請求の対応、展示活動、職員研修、電子化事業、内閣総理大臣への状況報告、見学受入れ等を実施すると共に、学外機関・学内記念事業・大学史等関連授業・大学広報・同窓会活動等に協力して資料調査、講師派遣、寄稿、講演、マスコミ対応等を行った。

なお、今後の課題としては、書庫収蔵スペースの狭隘化の改善、電子文書の受入れ・長期保存・利活用に向けた整備、利用審査業務の効率化・標準化、歴史公文書等の評価選別基準の見直しに向けた検討、多言語対応を含む効果的な展示の工夫、展示物の複製化、e-ラーニング研修教材の充実等が挙げられる。

神戸大学大学文書史料室概要（平成 31 年４月１日）

(1) 名　　称：　神戸大学 大学文書史料室（英文名 Kobe University Archives）

(2) 住　　所：　〒657-8501　神戸市灘区六甲台町１－１　神戸大学百年記念館１階

(3) 設　　立：　平成 22 年 4 月 1 日

(4) 政令指定：　平成 23 年 4 月 1 日（内閣総理大臣指定「国立公文書館等」）

(5) 延床面積：　243 ㎡（内訳：事務室 19 ㎡、閲覧スペース 12 ㎡、書庫 102 ㎡、作業室 28 ㎡、展示ホール 63 ㎡、観覧スペース 19 ㎡）

(6) 職 員 数：

兼任教員（室長（法学研究科教授））	１名
専任職員（室長補佐（政策研究職員））	１名
事務員（再雇用職員）	１名
事務補佐員（週 30 時間）	１名
事務補佐員（週 12 時間）	１名

(7) 所蔵文書：　目録登録総数 56,284 件　　代表的な収蔵文書は下記のとおり。

〇前身学校

- 旧制神戸高等商業学校文書（明治 35 年～昭和 ４年）　約 1000 点
- 旧制神戸商業大学文書　（昭和 ４年～昭和 19 年）　約 1200 点
- 旧制神戸経済大学文書　（昭和 19 年～昭和 27 年）　約 400 点
- 旧制姫路高等学校文書　（大正 13 年～昭和 24 年）　約 300 点
- 旧制神戸高等工業学校･工業専門学校文書（大正 10 年～昭和 26 年）約 700 点　など

〇神戸大学

- 神戸大学設置関係文書　（昭和 20 年代）　約　10 点
- 神戸大学学報　（昭和 25 年～平成 7 年）　約 500 点
- 神戸大学評議会議事録　（昭和 24 年～昭和 50 年代）　約　40 点
- 県立大学国立移管関係文書（昭和 30、40 年代）　約　20 点
- 旧姫路分校文書　（昭和 20、30 年代）　約 200 点
- 旧御影分校文書　（昭和 20、30 年代）　約 400 点　など

〇個人・団体

- 旧制神戸商業大学初代学長田崎慎治旧蔵文書　約 120 点
- 旧制神戸商業大学予科同窓会凌霜思誠会旧蔵文書等　約 200 点
- 旧制兵庫県明石女子師範学校同窓会明玉会旧蔵文書等　約 200 点　など

神戸高商の菊水の「徽章」
（平成３０年度特別展より）

令和元年８月

神戸大学大学文書史料室

https://lib.kobe-u.ac.jp/archives/　　archives@lib.kobe-u.ac.jp